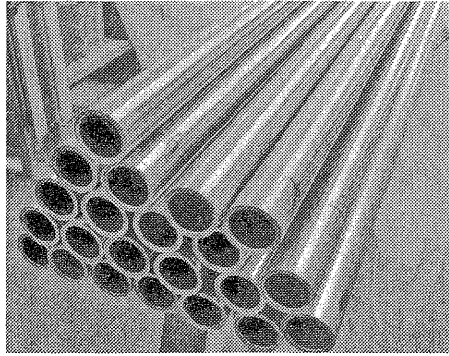


(第三種郵便物認可) 令和5年(2023年)7月4日 (火曜日)

# 大和合金 「核融合市場研究会」に加入 新エネ技術開発に寄与

銅合金の鑄造品・鍛造品メーカーである大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は、核融合市場



高温化でも強度に優れ、核融合実証炉向けで採用実績がある銅クロムジルコニウム合金管

このほど、核融合市場研究会に入会した。研究会は新エネルギーとして期待される核融合について、産業創成に関する最新情報を共有を進める任意団体。同社は実証案件への銅合金材料供給などを通じて、核融合発電技術の開発に積極的に寄与している。研究会への参加で、貢献の幅をさらに広げるための情報収集に取り組む考えだ。核融合発電は環境負荷が小さいほか原料調達しやすい、実証プロジェクトが世界的に活発化している。同社では2006年から核融合関連材料の開発に取り組み、フランスで建設が進む国際的な大

型実証炉案件のITERには、高温下でも強度に優れる銅・クロム・ジルコニウム合金の材料を供給。エネルギーを生むプラズマの性能を保ち発電能力を左右する重要装置のダイバーク向けには管で、炉壁材料のほか、プラズマを過熱するマイクロ波を炉に入れるためのミラー素材として板で採用実績がある。今後は核融合関連分野に貢献できる領域をさらに広げる可能性に期待する。

新たに立ち上げられた研究会は、核融合産業創成に関する最新情報の共有や研究開発関連の産業界のニーズ調査、新産業形成につな

がる企業ネットワークまでさまざまな方式の核融合の構築などが活動目標。対面形式の研究会が1年に4回開催される予定で、重電や通信、エネルギーなど幅広い分野の企業などが参加している。同社ではさ

「核融合技術の発展にさらに貢献していければ」(萩野社長)と期待している。